けんせつ

印刷部数　107,000部　発行人・編集人　吉川　豊

定価　五十円
（年間購読料　千八百円）
購読料は組合費のなかに含まれています

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
ホームページ
http://www.tokyo-doken.or.jp/

3首長を呼んでトークセッション

世田谷区長、中野区長、多摩市長の3人が、本部5階に集まりました。要求実現アクションの第4弾として開いたシンポジウム。大変有意義な内容となりました。

（関連記事3面）

総対話から未加入者の紹介へつなげよう

春の拡大月間後半戦

事業所と対話かみあう

石綿関連講習「受講したかった」

豊島・さくら

仲間を増やす春の拡大月間。4～5月の間に全都で3848人（1月人員比3・5%）の新しい仲間を迎えようという取り組みです。目標達成にむけて各支部の奮闘が続いています。（6面にも関連記事）

左より瀬谷書記、副分会長の野本さん、分会長の宮島さん、富岡さん

5月11日、豊島支部・さくら分会で、夜間の訪問行動が行なわれました。分会はこれまで順調に拡大が進み、8人の目標のうち、7人が加入し目標達成まであと1人です。

この日は10人がセンターに集結し、リストをもとに訪問先の組合員の情報を確認。2班に分かれて訪問グッズを用意して、分会長の宮島秀樹さん（サッシ工）、副分会長の野本陽子さん（建具工）は担当書記と組みを作り、さっそく出発しました。

訪れた富岡孝則さん（大工）は、社会保険加入の法人の代表。別の組合に加入していましたが、法人立ち上げの際、親身に話を聞いてもらえず、対応に不満がありました。労災について困っていたところ、仲間から工建を紹介され加入しました。

組合の石綿関連の講習については、「必要なので受講もしたいが、なかなか機会が得られないと悩んでいた」。また、インボイスについては、元請との関係もあり登録申請を求められているが、内容について充分理解できていないとのことなので、支部での相談会を案内しました。最後に、職人が事業所に加入した際には紹介してほしいと伝えました。

センターに戻りそれぞれの行動を報告。有力対象者もいるので最後まで気を抜かず達成に向けて頑張ろうと確認し合いました。

白井市長（左から6人目）と要請に行った支部の仲間

立川・国分寺・中鶴代

若手の力で牽引

全分会が上昇気流に

【府中国立・書記・前田寛史通信員】府中国立支部の春の仲間づくり月間は、役員の「（組織拡大目標を）やり切る構え」と「明るく楽しい分会づくり（組織強化）」が基本です。組織部会を事業所対策委員会と合同で開催し、改めて分会内事業所対策の重要性、「相談事は組合へ」の呼びかけを事業所に広げる意思統一を行ない、各専門部でイベント・学習企画の取組みを具体化して春の月間に臨みました。

月間ごとに作成される「メリット集」には資格講習、CCUSの認定窓口開設の他、後継者・青年・厚文部・主婦・シニア主催のイベントに加え、まちの救助隊や主婦の会の学習企画も掲載され、まさに「組合の魅力を仲間に知らせる最強ツール」として大活用されています。

そうした中、支部をけん引しているのが鶴代分会です。30代の若き分会長をはじめ、後継者部長など若手役員が多く在籍する支部内屈指の勢いがある分会です。仲間との対話の中では分会の若手交流会、後継者部主催のレクから始まり資格講習の案内、そして対話のクライマックスは事業所の状況を聞き取り未加入者の情報を得て、組織拡大につなげ、第2次行動終了時点で組織拡大の目標を達成しました。

GWを挟みましたが、全分会が上昇気流に乗る勢いです。「今年はド派手にやろうぜ」と全分会で開催される住宅デーの準備も快調、組織拡大・組織強化の大成功に向けて支部一丸、意気揚々です。

達成を喜ぶ鶴代分会のみなさん

小金井国分寺

小金井市で燃料費補助

支部陳情、全会一致で

【小金井国分寺・書記・小野寺和也記】待ちに待った小金井市の燃料費補助の陳情が全会一致で2023年3月28日に採択されました。

昨年8月、小金井国分寺支部では、近隣市が市独自の燃料費補助を創設したことを受け、国分寺市と小金井市に陳情を提出しました。国分寺市で10月に創設される一方、小金井市では継続審議となり、さらに、市長の辞任で議会も延びのびになっていました。

その後、議会が再開した2月17日、南雲正博副委員長ら2人で市議会全会派と市長に対して燃料費補助金創設について「国分寺市では早急に創設した。小金井市でも創設を」と要請し、議員からは「厳しい状況はわかった。創設に向けがんばる」と力強い解答がありました。そして3月議会で採択の運びとなりました。

陳情は採択されましたが具体化はまだこれから。そのため、お礼と早期創設のお願いとして議会開催日の4月24日のお昼に、市長と全会派へ12人で要請を行ないました。

白井亨市長からは「お待たせしました。申請方法など要望をききたい」と前向きな言葉があり、鯉淵勝也委員長は「誰でも申請できるように簡単にしてほしい」と要望しました。また中川和美住事対策部長は「燃料費だけでなく物価高騰でも困っている仲間はたくさんいる。早期創設に向け応援している」とエールを送りました。

朝やけ

■日本サッカー、Jリーグが30年を迎えた。記念すべきこの節目に、埼玉の浦和レッズがアジアチャンピオンズリーグで2万クラブの頂点に立ち、その決勝スタジアムの雰囲気が「世界に誇るビジュアルサポート」だとして話題に上った。浦和のファンのみならず、感慨深く感じたサッカーファンもいるようだ。30年でここまでサッカー文化が根付き、成長したのかと。

■そもそもJリーグは、サッカーのプロ化による日本代表の強化のみならず、草の根の多くの人達がいつでもスポーツを楽しめる場所を全国につくるという理念があった。これは発足当初から初代チェアマンである川淵三郎氏も積極的に発信していたと思う。「する、見る、支える」のうち「する」においてはまだまだ気軽にスポーツを楽しむ環境がつくられていないのが実情だ。

■30年前を思うと、本当に色々なことが起きて社会は大きく変わった。概して新自由主義が進む中で、生存競争が激しくなり、人間関係が希薄になって、コミュニケーション能力も低下している。そんな今だからこそ、楽しみながら仲間とつながれるというスポーツを「する」価値はより高まっているといえるだろう。Jリーグの今後の発展で、スポーツを通じた豊かな社会が実現するように願う。